

加茂法話会

平成三十年 五月二十二日

見附市 智徳寺内 平澤俊隆

挨拶は手を合わせて

きつさきっぱん  
喫茶喫飯

人、法門を問ふ、あるいは修行の方法を問ふ事あらば、衲子はすべから  
く実を以て是れを答ふべし。若しくは他の非器を顧み、あるいは初心未  
入の人意得べからずとて、方便不実を以て答ふべからず。

(略)

他の得不得をば論ぜず、ただ実を以て答ふべきなり。

(正法眼蔵随聞記 p 40)

今仏祖(の道)を行ぜんと思はば、所期しよぎも無く所求しよぐも無く、所得も無く  
して無利に先聖の道を行じ、祖々の行履あんりを行ずべきなり。所求を断じ、  
仏果をのぞむべからず。

(正法眼蔵随聞記 p 258)

正法眼蔵随聞記 水野弥穂子訳 筑摩書房 ちくま学芸文庫